

森川美穂 アルバム近代史

2020年～ コロナ禍編

2020年以降は、誰も想像していなかったコロナ禍編へと突入していきます。コンサートが中止、延期となり、試行錯誤を重ねながらも作品を制作して行きます。

タイトルをアルバム近代史としておりますので、アルバム制作の背景、内容をメインで書いて来ました。現在(2022年2月)から振り返ってみますと、ビフォーコロナ時代。とても開放感があり、もっと先へ、さらに先へと、思い描く未来にまっすぐみたいなの日々を過ごして来ました。

しかし、2020年のアルバム制作を書くにあたり、世界がコロナ禍へと飲み込まれていったことの影響が大きく、これを避けては通れません。そこで、ここからはレコーディング以外のことについても、少し触れていくことにいたします。

<35th Anniversary Year>

2020年は、森川美穂Debut 35th Anniversary Yearということもあり、色々と計画をしており、森川さんもスタッフもとても楽しみにしていました。5月の誕生日にはファンクラブ初のバスツアー、7月のアニバーサリーコンサート、そして、タイミングを合わせて、ベストアルバムのリリースと、ファンの皆様も、楽しみながら、森川美穂をお祝いし、お祭りができるといいなど、色々な計画を練っていました。

この年の森川美穂の歌手活動は、1月25日名古屋 TOKUZO、翌日26日には神戸 Studio KIKIでのライブからスタートしました。名古屋ライブの数日前に、喉の調子が悪いと連絡があり心配しましたが、その翌日には気合いで直して歌いますとメールが来たので、やれるならよかったと思いました。いつも有言実行の森川さんです。私はシンプルに言葉のままを信じることにしています。

私たちは、ほとんど会話することがありません。私(スタッフ西嶋)は東京で、森川美穂は大阪です。森川さんは、大阪芸術大学の教授業務でとても忙しいため、会話は最小限にし、時間をなるべく奪わないように心がけています。なるべく彼女の空き時間で簡単に私とのリレーションを処理できるように、メールでなるべく丁寧に説明、質問をするようにしています。私から見れば、大学の仕事をやりすぎていると思います。というのも、頼まれるとついあれもこれも引き受けてしまい、教授の守備範囲以上の仕事を受けすぎていると思っています。そのうえ、引き受けた仕事はどんなことも全力を尽くすという姿勢で毎日を送っているので、どんどん忙しくなり、自分の時間がなくなります。なんとも不器用で下手くそな生き方だと思っています。

しかし、そこが森川美穂という人物の魅力でもあるのでしょう。もう少し手を抜けばいいのにと思うのですが、言ったところでどうせ何も変わりはありません。森川美穂という人生の船長は森川美穂です。どんな時も、今を全力で生きる、それが彼女のシンプルな航海術です。私がやれることは、なるべく時間を奪わずに、森川美穂の音楽活動を支えることだと思いながら、あれやこれやを思考実験してみて、今回は、この道を行ってみませんか?などと、なるべく分かりやすくメールをして、それに対する返事を待ちます。

返事にはパターンがあります。

「わかりました」

「いやです」

「うーん」

この3種類です。

「うーん」・・・というのは、どうしようかと悩んでいる返事ではありません。「NO」という意思表示で「いやです」よりは少し柔らかい、気を使った表現です。

私に対してとか、あるいは先方に対してストレートに「いやです」とは言いにくいなあ・・・っていう時に使われる、森川さんが投げる唯一の変化球です。ピッチャーとしては球種が少ないが、キャッチャーとしてはキャッチしやすいボールです。竹を割ったような性格とはよく言ったもので、とにかくいつも言葉通りにまっすぐです。

2020年1月25日、名古屋TOKUZOUで集合しリハーサルを始めました。しばらく声帯を休めるために会話も控え、声を出していなかったのが心配だったようですが、リハーサルで声を出してみて、いけると思ったようです。リハの歌を聴いて、無理をしている判断でないことは分かりました。プロとして、お客さまに楽しんでいただける歌を歌えると思いました。

実にいいライブでした。喉をいたわりなが、少し抑え目にコントロールした歌い方が、これまでの森川美穂とは一味違う歌唱アプローチとなり、言葉がストーンと心に飛び込んで来ました。森川美穂は、このようにピンチをチャンスに変え、ついでに歌手として一歩前進してしまう力を持っています。

翌日の神戸のライブは、嘘のように喉が回復していて、どんどん声が出てくるので、本人も楽しくなってきた「あれ?私、調子いいみたい。」・・・という感じで、笑顔で気持ちよく歌っておりました。まさか、この日のライブが、2020年に人前で歌う最後のライブになるとは思ってもみませんでした。

<パンデミックの波>

その後、3月に予定していた福岡のライブ、東京でのライブが立て続けに中止となりました。その後も、ファンクラブバスツアーの計画は発表前に頓挫し、7月のアニバーサリーライブも全て予定していたライブは中止となっていきます。

森川さんは、大学の講義をオンラインに切り替える準備、アルコール消毒や、仕切り板の購入や設置準備、、、などなど、とにかく、やることが倍に増えて行きますが、コンサートの予定は立ちません。歌を歌えない日々を過ごしながらオンライン授業を再開していきます。しかし、オンラインで自分の部屋で大きな声で歌える環境を持つ学生などいません。

八方塞がりです。

当時、ライブハウスが槍玉に上がっていました。まるで、ライブハウスがいけない場所のように感じてしまう、そして、自粛している中でライブをやることへの批判など、メディアは分かりやすい攻撃対象を見つけては話題を増やしていくように感じました。私たちはいったい何を気にして、何を判断基準とすればいいのか?と毎日考えていました。私はスタッフですので、森川さんのデビュー35周年記念の2020年の活動を、楽しみながら前へ進めるための可能性だけを考えることにしました。そこで、提案したことが2つあります。

(1)オンライントークライブ

いきなり音楽を配信する自信はありませんでしたが、せっかくの35周年ですから、振り返らない女、森川美穂が、人生を振り返るという滅多にないトークライブをやりましょう。

(2)リハーサルスタジオからの配信ライブ

2020年、新たに計画するライブは、全てリハーサルスタジオからの無観客配信ライブのみにする。これにより、コロナ陽性者数の増加による緊急事態宣言、自粛要請、などの影響を最小限に抑え、ライブを実行していく可能性、確率を上げ、歌う場を作りましょう。

この二つを提案した段階では、まだ中止は決まっていませんでしたが、7月のライブだって中止になる可能性があります。法的にはやることは可能ですが、強行突破したところで、ファンの皆様が気持ちよく楽しめるお祭り気分はゼロ、それどころかマイナスの議論まで出てくる可能性さえあります。それではやる意味がありません。

7月のコンサートは、やれたらやればいい。で、中止になったら? その時にでも楽しめることを考えましょうということで、(1)トークライブを考えました。5月の中旬からスタートして、11回のオンライントークライブシリーズとして、デビュー月の7月まで行う。

(2)の配信ライブについては、森川さんは、、
「えっ?? リハスタでライブやるんですか??? うーん……」

→ はい、出ました。「うーん」出ました。もうお分かりですね? この表現は、「いやです」のソフトバージョンです。

コロナ禍でもあり、緊急に決定しないといけないが多かったので、この時は、珍しく電話で話をしていました。私は、滅多に説得はしませんが、この時は、全力で説得することにしました。

●ライブハウスでのリスク

ギリギリまで、ライブができるかどうかわからない。中止の場合の払い戻しに必要とする、ライブハウスサイド、お客様の手間と労力。この程度でやらないの?という思いのファンと、こんな状態でもライブをやるの?という意見の分断、感情の乖離。これまでも、苦渋の判断をしながら、中止も経験したが、これを今後も毎回、経験しながら、やるか?やらないか? を考えることになる。それも、明確な基準もなく、世の中の空気を考え、どっちに決定しても、お客様への影響がある。森川さんの限りあるスケジュールの使い方として、それでいいのか?2020年は、結果として歌うことが出来なかったというこだってありえる。

●リハーサルスタジオのメリット

無観客であることを前提としているので、ライブを実行しやすい。スケジュールを無駄にすることなく、計画的に定期的にライブを実行していける。森川美穂の歌をオンラインであっても、継続的にお客様へ届け続けることができる。

「わかりました」

これ以上、くどくどと説明されてはたまらないとでも思ったのか、予想よりスムーズに同意してくれました。森川美穂の「わかりました」は、約束の言葉です。答えを受けて、今度は私が約束を果たす番になります。

<35周年ベストアルバム企画>

パンデミックに右往左往しながらも、進んでいった2020年だったわけですが、このような背景の中、ベストアルバムの企画書を手し、ヤマハに伺ったのは2月17日のことでした。もしもライブが中止になると、CDはリリースできる。ベストアルバムの企画を進めていこう。そう決意し、企画書を握りしめて、ヤマハに打ち合わせに行きました。

2019年の夏頃から、VAPへのアプローチはしていました。権利関係のこともあり、ヤマハへ企画を持ち込むのが一番だろうという結論に達し、2020年になってから会う予定になっていましたが、コロナとなり、スケジュールが決まったのが2月17日となりました。

私の企画は、

- 2枚組で、1枚目はVAPからリリースされた作品、2枚目は東芝EMIからリリースされた作品をまとめる。
 - 今の森川美穂の歌を入れたいので、新曲を制作し収録する。
- 新曲の作詞は松井五郎さん、作曲は松本俊明さんに依頼し、記念曲とする。
- ベストは全てオリジナル原盤を集める。
 - 35周年にちなみ、トータルで35曲収録する。

これらを書面にし、選曲案もまとめ、ヤマハへ提出しました。

事務所ビルはすでに無人で、全員がステイホーム、仕事はオンラインというスタイルになっていました。この急激な変化にはびっくりしました。ビルに入り、窓の向こうの警備員さんにペコリと頭を下げ、自分の足音だけを聴きながら歩きエレベーターに乗り込みました。4Fで降り、鍵のかかったドアガラスから見える、無人オフィス。まるでSF映画のようで「私はもしかしたら、人類の生き残りなのかもしれない。」という、人間がいなくなった世界に迷い込んだ気分でした。

ヤマハの担当として対応してくれた米澤さんは、森川美穂のヤマハ時代を知るスタッフの一人でした。誰もいないオフィスの会議室で「35周年ですか、ぜひお祝いできるといいですね。とにかく前向きに頑張りましょう!」と勇気づけていただき、無人のオフィスビルを後にしました。

私は、このベストアルバムの企画は、80%は通せると考えていました。少なくともヤマハに損失が出る企画ではないからです。しかし、労力と利益の対比として、ある規模以上の利益を生む企画しかやらないという方針がある場合には、通らない場合もありえます。また、スタッフの世代交代が進行している現在、森川美穂の名前を知らない場合などは、多少の利益に対して、労力をかけるのはめんどくさいからと、担当者の段階でボツになるということもあり得ます。ここは、大きなポイントです。

実は、ヤマハの音楽出版デスクに、以前、私がサラリーマンをしていた時の部下が働いています。そこで、担当者を紹介してほしいとお願いしていました。もちろん、思惑通りに行くかどうかは別ですが、こうして協力してくれる気持ちを持った人がいることは、可能性を広げてくれるものです。米澤さんが担当ということで、私の成功確率予想は95%になりました。結局、人間です。やる気になってくれる仲間がいるかどうかなのです。

<2020年 新曲制作 作曲、作詞編>

アルバムがどちらに転ぼうと、新曲はレコーディングするつもりでいたので、すでに1月に松本俊明さんのマネジメントと打ち合わせし、作曲をお願いしていました。新曲は、35周年の記念曲としようと思いましたが方針を変更しました。このパンデミックで多くの人が味わっている苦しい気持ちの中に、森川美穂の歌声で、光を差し込みたい。優しく降り注ぐ光、希望を歌ってほしいと思いました。松本俊明さんには、バラードを依頼しましたが、大きなドラマティックな楽曲ではなく、こじんまりとしていて、日常の中にある優しさを表現するようなメジャーのメロディーを歌いたいと依頼をしました。

3月9日、デモテープが上がってきました。聴きながら自然と胸から喉元へ向かい感動が差し込みました。松本さんの愛情、優しさがそのまま音楽になった、そんなメロディーでした。すぐに森川さん、松井五郎さん、アレンジャーの野崎洋一さんへメールでデモ音源データを送り、そのまますぐに散歩に出かけました。

この日は、ギリギリまで引っ張って悩んでいた3月15日の福岡公演の中止を決めた日でもありました。このようなことの連続だったので、しばらくこの心配や悩みから離れようと、この素敵なメロディーと一緒に散歩へ出ました。松本さんのメロディーと共に散歩しながら、青空を眺め、イメージを膨らませながら歩きました。30~40分ほど歩くと、気に入っている川辺の公園があります。そこを歩いているときに、松井五郎さんからメールが来ました。

「どうしますか？」

どんな方向性の歌詞にしたいのですか?という意味です。私は、今このパンデミックの時代だからこそ、皆が感じている感情を歌にできればということ、そして1枚のイメージ写真を送りました。



五郎さんからのメールを確認するために立ち止まった時、目を落とした足元に、たまたま咲いていたタンポポがとても美しく感じました。

ささやかに、そして遅ましく咲く命のイメージ。

他には散歩さえしている人がいない日でした。誰もいない公園、淋しそうなブランコ、ジャングルジム。誰ともすれ違うことのない川辺の小道を歩き、また立ち止まり、言葉にならないイメージ写真を添えて「お願いします」とメールしました。

この日の夕方、歌詞がメールで届きました。

「涙のあとにあなたがいれば」

聴いた人たち全員、それぞれに「あなた」がいる。胸にゆっくりと染み込んでいく歌詞をメロディーにのせ、2020年のパンデミックという特別な世界で、森川美穂が歌うべき作品が生まれました。



森川美穂

VERY BEST SONGS 35

【2020/07/15 Release】

【DISC 1】

01. 教室 (1st SG/1985)
02. ブルーな嵐 (2nd SG/1985)
03. 赤い涙 (3rd SG/1986)
04. サーフサイド・ブリーズ～真夏の風 (4th SG/1986)
05. 姫様ズーム・イン (5th SG/1986)
06. おんなになあれ (6th SG/1987)
07. PRIDE (7th SG/1987)
08. Be Free (8th SG/1988)
09. わかりあいたい (9th SG/1988)
10. Real Mind (10th SG/1988)
11. チャンス (11th SG/1989)
12. フルフェイスと Summer Days (AL『おんなになあれ』より/1987)
13. LONG GOOD-BYE LONG (AL『おんなになあれ』より/1987)
14. Bird Eyes (AL『Nude Voice』より/1987)
15. クリスマスはどうするの? (AL『Nude Voice』より/1987)
16. スタンダード (AL『1/2 Contrast』より/1988)
17. あの頃に消えた夢 (AL『Ow-witch!』より/1988)
18. ブリッジから見た夜明け (AL『Ow-witch!』より/1988)

【DISC 2】

01. ブルーウォーター (12th SG/1990)
02. 心のパーキングゾーン (13th SG/1990)
03. LOVIN' YOU (14th SG/1991)
04. POSITIVE (15th SG/1991)
05. 目覚めたヴィーナス (16th SG/1992)
06. 翼にかえて (17th SG/1992)
07. 君が君でいるために (18th SG/1992)
08. 傷痕 (19th SG/1994)
09. 恋していれば大丈夫 (20th SG/1994)
10. 99 Generation (23rd SG/1996)
11. DOMINO (24th SG/1996)
12. フィンガー (25th SG/1996)
13. Yes, I Will... (SG「ブルーウォーター」c/w/1990)
14. BECAUSE (AL『POP THE TOP!』より/1991)
15. あふれる想いのすべてを (AL『HALLOW』より/1995)
16. 輝きたい (AL『a holiday』より/1993)
17. 涙のあとにあなたがいたら (*ボーナストラック2020年新曲)

3月中旬頃だったと思います。企画持ち込みの打ち合わせから1ヶ月ほどが経過し、ヤマハの米澤さんからベストアルバムの予備編成が通り、7月15日リリースがほぼ決定したと連絡をいただきました。

予備編成会議が通れば、これは決定と同じことです。記念ベストアルバムが出せると決まったことは、希望そのものでした。3月15日の福岡のライブ、そして20日のブルースアレイでのライブ中止を決定したばかりの時期でしたので、がっかりしている森川さんに朗報を伝えられることが、とても嬉しかった。そして、暗いムードの世の中で、同じプレッシャーを感じているであろう、ファンの方々へ、この朗報を早く伝えたいと思いました。

35周年記念ライブは7月19日でしたので、その直前にアルバムをリリースし、ライブ会場で盛り上がるという計画ですが、ライブがやれるかどうか、それはまだわかりませんでした。今、心配しても、回答は出ないし、意味がないことはわかっている。でも、つい考える、そして、やっぱり回答は出ない。そしてまた、出来ないかもしれないなあ・・・と、つい気持ちはネガティブな方へと向かいがちでした。何度繰り返しても、その時期にならないとわからないことです。そこで、もしもライブが中止になったとしても、“出来ること”を計画しようと考えたのが、前述のオンライントークライブ、そしてリハーサルスタジオからの無観客配信ライブの計画となっていきます。

● ジャケット制作

森川美穂の写真素材は、とても多く保存されていました。ヤマハにあったわけではありません。レコード会社にあったわけでもありません。なんと、森川さんのお母さまの超ファインプレーでした。

森川さんがヤマハを離れる時に、ヤマハのマネジメントスタッフが森川美穂関連資料をまとめて段ボール箱で実家へ送ってくれたそうです。それをお母さまが、大切に保管してくれていたのです。

音楽業界が衰退していく現実の中、保管に経費をかけることさえ非効率であるということになってきており、さらに時代と共に人が入れ替わり、マスターテープですら、行方不明というようなケースもあります。信じられませんが、実際に、よく聞く話です。

森川さんに段ボール箱を送ってもらいました。その中には、時代を生き延びた写真素材たちが詰まっていた。私も“フィルム”というものに、久しぶりに触れました。ネガフィルム、ポジフィルム、35mmの通常フィルムから、4×5インチの「シノゴ」と呼ばれるフィルムなど、多くの撮影素材が森川美穂の実家で大切に保管されていました。断捨離魔の本人の手元でなく、お母さまの保護下で管理されていたため、捨てられずに生き延びた素材たちです。これも、一つの奇跡です。

森川美穂という人は、本当にすぐに捨てます。主演ミュージカル「アイーダ」の台本なども、終わったもの、過ぎ去ったものは、ゴミ箱へ直行です。

「だって、必要ありませんから。終わったことです。」

ええ、まあ、、、そうですね。。。。

こうして、森川断捨離を奇跡的かわし、この日のために、母親の保護下で隠れながら生き延びた写真素材があったからこそ、アルバムの顔であるジャケットが完成しました。

ベストアルバムというのは、制作サイドの思い一つで、クリエイティブな作品にもなりますし、ドライブインの片隅にある権利切れの音源を集めたような、低価格が売りのベストになる可能性だってあります。

この大きなイメージの差は、一眼でわかるアルバムの「顔」=ジャケットの表1です。デザインは、私が一番信頼しているデザイナーの片山裕さんをお願いしました。もちろん、内容、音のクオリティなど、今回のVERY BEST SONGS 35は全てにおいて、ベストを尽くし、いい「作品」として販売できましたが、そのイメージを一眼で大きく左右するポイントとして、ジャケットデザインの力が大きいわけですね。ここが弱いと、たとえ内容が良くても、見た目の第一印象で、面接で落ちてしまうというようなことになります。

ブックレットやバックインレイに使用した写真は、当時、私も見覚えのある写真を選びました。ベスト=初期からの作品集ということを感じていただくために、VAP時代の写真をメインに持ってきました。

1枚目のCDに収録されているVAP時代の作品の多くは、私がディレクターとして参加しレコーディングしたものです。そして、2枚目は、私が全く知らない森川美穂の人生が詰まっています。様々なことを思い出しながら、そして、私が知らない時代の作品の背景を想像しながら、楽しみながらベストアルバムを制作させていただきました。

VAP時代の作品については、いくつかの楽曲をピックアップしながら、森川さんとやりとりしながら、森川美穂メールマガジンで配信するために文章を書いたことがあります。

曲ごとに、さまざまなエピソードがありますが、あまりに長い文章になってしまいますので、ここでは先に進もうと思います。

※VAP時代のレコーディング裏話のメルマガコンテンツは、こちらに登録いただければ、メール配信をいたします。→ [メールマガジン登録はこちら](#)

※お預かりした写真素材は、安全確保のため、森川さんへ返却することは見合わされました。現在は、スタッフの保護下で安全に保管されています。

●涙のあとにあなたがいれば

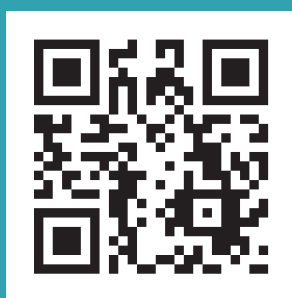
レコーディングは、2020年5月9日に東京のスタジオ、Sound Inn Studio で行われました。緊急事態宣言が明けるのが5月の連休明けの予定でした。私たちもステイホームの生活を続け、緊急事態の移動自粛明けでレコーディングをと、ギリギリまでレコーディングを遅らせていました。7月15日リリースのベストアルバムに、この楽曲を収録するためには、この日にレコーディングをしないと収録が出来なくなるというタイムリミットでもありました。

結局、緊急事態宣言は延長されましたが、これは私たちにとって、そして待ってくださっているファンにとっても必要、不可欠、なレコーディングであると判断し実行しました。

ピアノの野崎洋一さんと、歌の森川美穂 2人のレコーディングですが、広いスタジオで、ソーシャルディスタンスをしっかりととり、少人数でレコーディングを行うことにしました。

大袈裟な言い方になりますが、この頃は、いつ誰が欠けていくかもしれないという思いで、日々を過ごしていました。そこで、楽曲の内容も、人と人との繋がり、それぞれの中の「大切なあなた」をもう一度考える歌となりました。

このレコーディングも、ドキュメンタリー記録として残しておきたいと考え、映像作家の翁長裕さんにスタジオに入ってもらい、森川美穂のレコーディングの1日を撮影してもらいました。



『涙のあとにあなたがいれば』

<https://youtu.be/jDCPoNI930s>

2020年5月9日 Sound Inn B Studio

Vocal: 森川美穂 Piano: 野崎洋一 Violin: 須磨和声

Producer: 松井五郎 Director: 西嶋貴丸

Engineer: 山下有次 Assistant Engineer: 成田啓介

Movie Director: 翁長裕

普段なら、レコーディングにいらっしゃる松井五郎さんも、この時期は、少しでもソーシャルディスタンスをとということで、スタジオは控えて、最小人数でレコーディングすることにしました。密を避けるために、バイオリンの須磨和声さんは、この日の音源を送り後日ダビングで参加をしてもらいました。こうして、期限ギリギリで新曲「涙のあとにあなたがいれば」をレコーディングし、アルバムの35曲目にこの曲を入れてマスタリングまでを終えることが出来ました。

ジャケットも順調に進み、あとはリリースを待つという段階で、一息ついていた6月初旬頃の事だったと思います、、、今度は、レコードショップまでが、営業自粛となっていきました。

なんだか、いやーな雰囲気だなあ、、、と思っていたら、レコード会社各社が次々に、CDリリース延期を発表し始めました。6～8月にリリース予定のCDやDVDを軒並み、秋から年末のリリースにするという動きが業界全体に起こりはじめていました。まさか、と思っていたところに、ヤマハから連絡がきました。

この時期に、リリースしても、レコードショップは閉まっているし、どうしましょうか？各社、リリースを秋以降にする動きも出てきています。森川さんのベストも、秋以降のリリースに遅らせませんか？・・・という、提案でした。

私は電話で「う～ん」と、困窮しながら答えていました。もちろん「いやです」のソフトな表現です。

レコード会社はあくまでヤマハです。私に編成の決定権はありません。しかし、意見を正直にいうのであれば、誕生日をずらすのはピンと来ません、、、と伝えました。

毎年、連休を作るために、成人式が第2日曜日の翌日というのにさえ、違和感を感じているのです。7月が誕生日なので、記念品を作ったから、秋から年末までには記念品を届けるようにするね、、、って言われても、おそらく誰もピンと来ない。。。。。なんで、誕生日に届けられるように作らなかったの？って誰もが思うでしょう。

確かに、まだコンサートも出来るかどうか分からないというタイミングで、中止になる可能性は、ムードとして高いと感じていました。しかし、、、

「誕生日を変更するって、どうなんですか？」

「遅らせれば、本当にコロナは落ち着くと思いますか？」

「冬にまた感染拡大するのではないですか？」

「今後も数年続くことも考えられるのではないですか？」

「来年になれば、35周年ではなくなりますよ？」

「年末にもっと感染拡大した場合、リリースは中止することになりませんか？」

「来年、35周年アルバムを出しても、もう、そりゃ、なんだかってなりませんか？」

誰だって答えることができないようなことを、私は立て続けに質問をしました。おそらく、厳しい、攻撃的な口調になっていたと思います。今度は、米澤さんが「う～ん、、、そうですよねえ、、、」と困っていました。

様々なケースを考えると、予定通りに、デビュー月の7月にベストアルバムをリリースするのが、本人も、そしてファンの皆さんも、一番スッカリするのではないのでしょうか？私の意見としては、コンサートがあっても、なくても、予定通りにリリースしていただければ、嬉しいです。・・・とお伝えして、あとはヤマハさんにお任せすることにしました。

「事務所がそう言っているなら、予定通りリリースしましょう」と、社長の判断がありましたと連絡をいただき、胸を撫で下ろしました。ライブが中止になる可能性もありえると考えて、無観客配信ライブ「ひとり夏フェス」を企画し、8月に、ピアノ一本で1日35曲を歌うライブ配信を行うことにしました。CDリリースと連動することで、一人でも多くの方に、今の森川美穂の歌声を届けたかった。

「サーフサイド・ブリーズ」「おんなになあれ」「プライド」「Summer Sweet Pain」「Mambo Soleil」「Real Mind」「ブルーウォーター」などを歌う予定でしたが、これらはリズム隊がないとオリジナルイメージにならない曲です。今回は、ベストアルバムと連動した企画ライブですから、オリジナルに近いイメージで歌うことが必要です。しかし、オリジナルカラオケは、権利的に使用することができません。

無観客配信ライブ「ひとり夏フェス」は、私から提案したアイデアです。もう悩んでいる時間はありません。エイヤッ!と腹を決めて、カラオケを自社で作ることに決めました。何曲制作したでしょうか?、、おそらく30曲近いカラオケを作りまくりました。ちょうど6月に持続化給付金が入る予定でしたので、森川美穂カラオケ制作に使うことにしました。

よし、これで、私に万一のことがあっても、今後の40周年、45周年、50周年、と、今回のようなキーボード1人のサポートのライブであっても、これだけカラオケがあればアニバーサリーは乗り越えられるはずだ。大袈裟な表現に聞こえるかもしれませんが、この頃は、とにかく「最悪」をいつも念頭に置き、それでも乗り越えるためには何をすればいいのか?そんなことばかりを考えていました。高齢者が危ない=それは自分自身も含まれていると考え、バックアップを考えていかないといけないという意識でいたのです。

この万が一のバックアップは、2019年から考え始めていていましたが、コロナ禍となった2020年2月から真剣に考え行動していきました。現在、ファンクラブスタッフとしてメインで手伝ってもらっているスタッフの秋村さんも、この2月にあって打ち合わせをして、そこからスタッフとして参加してもらっています。常に最悪を考えて、その中で何ができるのだろうかと考え続けた。それが私にとっての2020年でした。

7月になり、コンサートの中止(1年延期)を発表しました。薄々、そうになっていくだろうと感じてはいましたが、やはり決定するまでには、何度も、どうしようかと話し合いをしました。しかし、何が正しいのか?決定的な基準、根拠が自分の中にはないのです。これが苦しかった。渋谷プレジャープレジャーは、普通に満員でライブを行っているアーティストもいました。東京都としても、チケットを販売済みのコンサートは、実行してもお咎めなし、しかし、これから計画する事はいけません、、、という表現をホームページに掲載していました。とにかく毎日、朝目が覚めれば、いったいどう考えたらいいんだろう?と悩む日々が続きました。

一般的には、チケットを半数にして、座席を1席ごと間隔を開けて着席できるようにしてライブをやっているか、もしくは中止する、というのがよくあるケースでした。やったらやったで、もしもライブ後に発熱した人が出たらどうしようとか、様々なことを気にしながら、楽しいお祭りライブは出来ないだろうと考え、苦渋の決断でしたが、1年後にやることを約束し、この年のアニバーサリーライブは中止する事にしました。こうして、1月26日の神戸ライブ以来、1度もコンサートのできない日々が続きました。

そして、やっと歌える夏がやって来ました。森川美穂、初の無観客配信ライブ「ひとり夏フェス」です。やっと音楽を配信できるころまでたどり着きました。約7ヶ月ぶりのライブです。大阪ー東京の移動のこともあり、リハーサルは当日行い、そのまま本番としました。普通ならリハーサルでは確認事項をチェックするための歌唱なので、力を抜くものですが、森川美穂はいつも全力です。困ったものですが、これは生き方の問題ですから、仕方ありません。リハーサルで午前中から35曲、そして本番35曲、1日70曲全力歌唱です。7ヶ月ぶりの歌唱は、過酷な配信ライブとなりました。翌日、横浜でラジオの生放送ゲストがありましたが、流石の森川美穂も、声が枯れハスキーボイスになっていました。

2020年 配信ライブ

8月 ひとり夏フェス

9月 カヴァーライブ夏

10月 カヴァーライブ秋

12月 森川美穂 シングル全曲歌います。

計画通り、定期的に配信ライブを行うことができました。この年は、本当に様々なことがありました。中学時代からの歌の恩師、小林信吾さん、御母堂と、森川美穂にとって、大切な人たちとの別れが重なった年でもありました。

森川美穂 VERY BEST SONGS 35
Trailer

<https://youtu.be/fY8rmDPed4k>

森川美穂のすべてを凝縮!
デビュー35周年を記念した35曲入りベストアルバム。

